

「主体的・対話的で深い学びに向かうための 授業改善」実践事例

第5学年 道徳科の学習を通して

道徳科「心のレシーブ」
(出典：「新しい道徳5」東京書籍)



1 子どもが見通しをもち、 自分の考えや思いを主体的に表現するための工夫

【学習のねらい】

- 登場人物の気持ちの変容を感じながら、自分の生活に置き換えて考えることを通して、友達と互いに信頼関係を築こうとする。**
- 友情を深めるには、友達と理解し合い、認め合うことが大切であることに気付く。**

1 子どもが見通しをもち、 自分の考えや思いを主体的に表現するための工夫

(1) 事前アンケートの活用

これまでの様々な集団活動を振り返った事前アンケートを基に、友達と友情を深められた場面や、あまり友情を深められなかった場面を振り返らせることで、教材の中にあるトラブルを自分事として考えられるようにした。

クラスアンケート結果

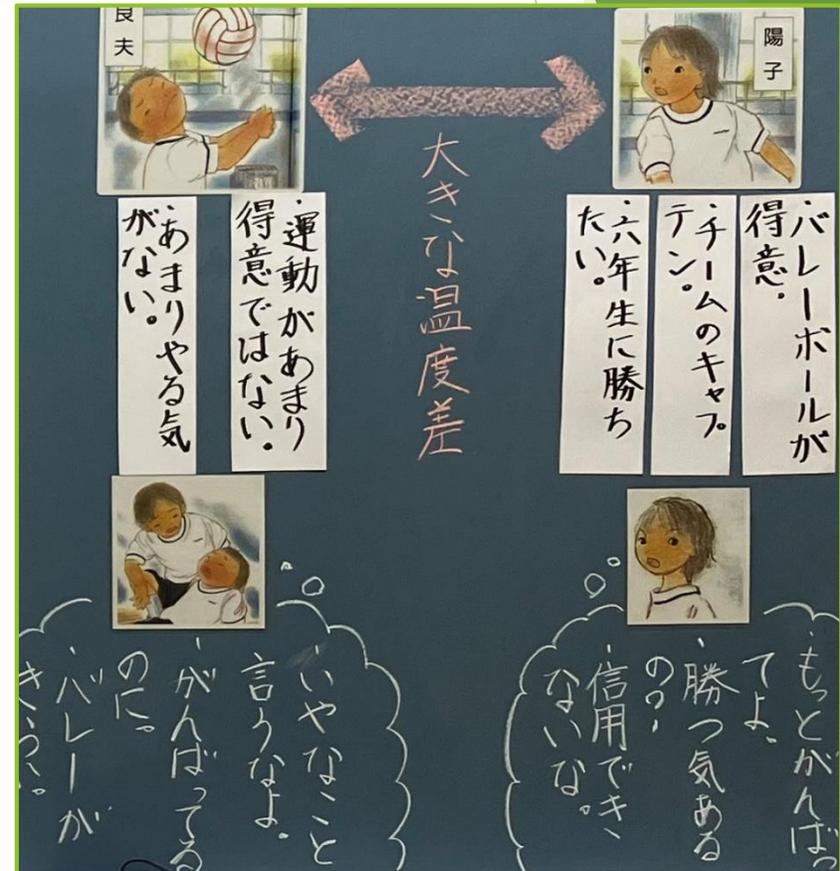
○仲よくなれたと思えた場面

- ・席替えでとなりの席になったとき
- ・集団宿泊活動でみんなと寝たとき
- ・みんなでカレーを作ったとき
- ・運動会のリレーでバトンパスができたとき
- ・休み時間にたくさん話せたとき

1 子どもが見通しをもち、 自分の考えや思いを主体的に表現するための工夫

(2) 構造的な板書の工夫

主人公だけの思いに着目するのではなく、チームのメンバーのそれぞれの思いを俯瞰して見ることができるよう、挿絵を使った関係図を提示した。このことにより、トラブルの原因と考えられる要素をいくつも発見させることができた。



2 自他を大切にし、 学び合う活動（ハイリuntime）の充実

(1) 柔軟な学習形態の工夫

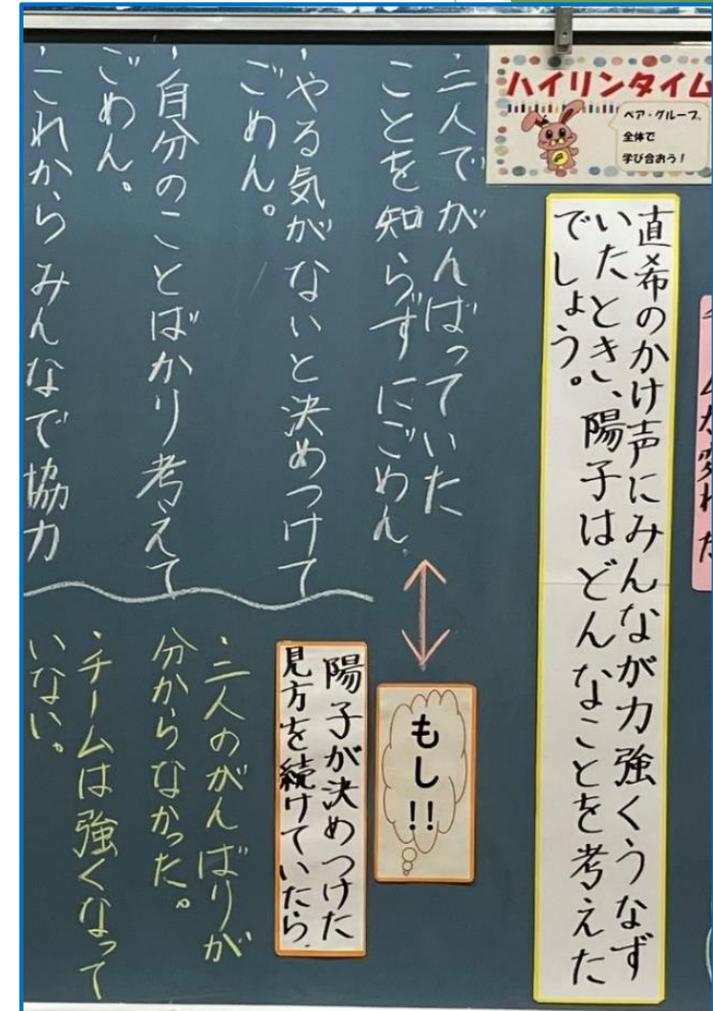
ハイリuntimeを充実させるために、まずは自分の考えをしっかりともてるよう、一人で考える時間を必ず設定し、実施してきた。そして、ペアやグループによる話し合いへと発展させ、自分の考えたことや感じたことを伝え合い、互いの考えを広げたり、深めたりすることができるようにした。また、これら一連の学習習慣を定着させるために、様々な教科において繰り返し実践した。



2 自他を大切にし、 学び合う活動（ハイリuntime）の充実

(2) 対話を活性化させる工夫

児童一人一人の考えや感じたことなどの意見を全体で共有することにより、意見を全体化することにより、自分の考えを修正したり、深めたりすることができた。また、より良い友達関係を築くためには何が必要かを気付かせるために、ねらいにせまるような発言を引き出すための問い返しを適宜行った。



3 学びの成果と自己の成長を実感し、 次の学びにつなげるための振り返りの工夫及び評価

(1) 自分事として捉えるための振り返り

互いの考えを伝え合うことにより、相手のことを決めつけず、もっと理解しようとする意見が増えた。

授業中に発表できなかった児童については、ワークシートへの記入を確認することにより、聞き漏らしなく思いや考えを知るようにした。ワークシートの返却の際、いくつかの振り返りを紹介して称賛し、クラス全体で相互理解の態度を醸成できるようにした。

今日の振り返り

人のことを絶対に決めつけない。
人の話を聞くようにする。
自分のことはわかり考えて行動しない。
人にはいろんなところがあって当たり前だと思って、つぎ合っていく。

○ 直希のかけ声にみんなが力強くなすいたとき、陽子はどんなことを考えたでしょう。

もっとチームメイトのことを知ってあげればよかった。
・良夫にあんなこと言わなすぎなかった。
・これからは、放課後系東習にわたしたちも参加しよう。
④ 自分も系東習して、チームをサポートしたい。
・ひどいことを言ってしまってもうしわけない。
・絶えず月券とう。
☆ これまでの自分を振り返り、今日の学習を今後どのように生かしたいと思いましたか。

・友達と話すときは、相手の気持ちを考えてから、声かけなどをしようと思いました。
④ 友達とぶつかったとき、自分からあやまる。
④ 相手の気持ちを受けとめる。
④ 人のことを勝手に決めつけずに、素直に相手を受け入れる。相手を素直に受け入れてみる。その人のちがいが受け入れてくれるかもしれない。もしそれがあれば、もっと仲の良い友達にほめるかもしれない。



3 学びの成果と自己の成長を実感し、 次の学びにつなげるための振り返りの工夫及び評価

(2) 事前アンケートの活用

今後の友達関係をより幅広くしていくために、事前アンケートで知った友達の新たな一面を紹介し、人には自分の知らない一面があることや友達にもっと関心を抱くことの大切さをクラス全体で確認できた。

○知らなかった友達の一面

- ・友達の将来の夢（医師、看護師、パイロットなど）
- ・思っているより、ずっとおしゃべりだった。（4年生まではもっとおとなしかったし・・・）
- ・習い事をがんばっていること。（あまり休みがないみたいだった）
- ・包丁を上手に使えること。（カレー作りのときに思った）
- ・笑いのセンスがあるところ（意外におもしろかったから）

3 学びの成果と自己の成長を実感し、 次の学びにつなげるための振り返りの工夫及び評価

(3) 「ありがとう&ほめほめタイム」の実施

互いに相手のことを理解し、信頼や協力できる関係を継続していけるように、帰りの会の中に、「ありがとう&ほめほめタイム」という場を設定した。日常的に友達のよさを伝え合い、互いに認め合う取り組みを実施した。

今日、〇〇さんが係の仕事を手伝ってくれました。〇〇さんに拍手をしましょう。



成果

- 友達とよい関係を築いていくことについて子どもたち自身が考えを深め、今後の生活に生かそうとする気持ちが授業の発言や振り返りの言葉から強く感じられた。これから建設的な友達関係を築くための考えた言葉掛けや気配りが見られるようになった。

課題

- 友達とよい関係を築いていくためにどのように行動すればよいかを考えて行動できる児童が増えた。一方で、互いのよさを伝え合い、さらに高め合う集団となるには課題が残る。教師が児童の行動に意味付けをしたり、互いのよさを認知できる機会を増したりすることにより、他者とより主体的・協働的に関われる集団づくりに努めていきたい。